



鳥見の記 散策を楽しもう

第6回 みずき野近郊の水鳥

2018.7



夏真っ盛りの7～8月は、衰える体力の維持と萎える気力をリフレッシュしようと始めた朝の散歩も、暑さに負けそうな毎日です。日がなぶらぶらしているブラリーマンのバーダーにとっては、文字通り「ブラ・ブラ」の日々になりますが、普段より早起きして出かけようと日々を過ごしています。



第2調整池の堤で鳴きながら頭上を飛ぶホトギス

この春に雛を無事に育て上げた小鳥たちが、朝から「ピーチク・パーチク」と親子でせわしなく鳴きあう声が聞こえてきます。今年は例年になく朝に夕なに「トッキョ・キョカキョク」と鳴くホトギスの声を、よく耳にします。第2調整池の堤では、水田方向から文化財公園方向に鳴きながら飛ぶホトギスが見られます、また、3丁目の谷地林から駐車場の屋敷林方向に、またその逆に飛ぶ姿も見られます。残念なのは、未だその姿の撮ることができていないことです。真に残念！



大木の樹上に止って鳴くホトギス

今回は、みずき野周辺では見られない水辺の鳥ーシギ、チドリとハクチョウ、カモ類を紹介します。シギやチドリは、小貝川の稲豊橋を渡り守谷霊園から伊奈高校周辺の水田地帯で4月末から5月中旬頃にかけて毎年見られます。10月下旬以降に一言神社の先の菅生沼や我孫子の手賀沼そして土浦公設市場の乙戸沼等々へ足を伸ばせば、冬の渡り鳥のコハクチョウやカモ類も見ることができます。

まずは表紙の鳥たちをご紹介

今回は、河口・港湾・海辺等で見られる水鳥を表紙に揃えてみました。旅先で観察してみるのも一興でしょう。

鳥の名前	特徴や撮影場所など	鳥の名前	特徴や撮影場所など
ウミネコ	くちばし 嘴の先端に赤と黒の斑点、脚が黄色。	オオセグロカモメ	嘴の下に赤斑点、背が灰黒色、脚は桃色。稚内港。
セグロカモメ	嘴の下に赤斑点、背が灰黒色、脚は桃色。左は水戸の千波湖、右は我孫子の手賀沼。		
ユリカモメ	嘴が赤で目の後ろに黒斑点、脚が赤い代表的なカモメ。左は4月頃から見られる夏羽の鳥で頭がこげ茶色。墨田川。右は冬羽の成鳥。我孫子の手賀沼。		
シノリガモの雌雄	丸みのある頭に白斑点、冬鳥で北日本の荒波の岩礁に生息。羅臼漁港。	ホオジロガモの群れ	三角おにぎり頭で頬に白斑点。広い内湾に見られる。羅臼海岸。

鳥識①カモメ:

一般にカモメと呼ばれる水鳥は、^{くちばし}嘴が黄色、背が灰青色、脚が黄色で、冬鳥として冬の西日本で多く見られます。



カモメの識別はとても難しい

カモメ類は主に冬鳥として日本に渡来する。羽色は白・灰・黒色で、形もどれもみなよく似ている。そのため成鳥での「背の灰色の濃さ」、「^{くちばし}嘴の先の色と模様」、「脚の色」、「目の後ろの黒斑点の有無」や「広げた翼の先の色」等々を組み合わせると区別するのがポイントのようだ。

コチドリ

黄色いアイリングがチャームポイントの、日本で最小のチドリ

大きさが 16cm の夏鳥で、水田・湿地・河川などに生息します。頭の上と背が砂褐色で、顔と胸元に黒帯があるのが特徴です。コチドリはみずき野周辺でも農業用水路の周辺の水田や農道で見られます。



イカルチドリ

河原の砂礫地を好む、コチドリより薄めのナチュラルメイク

大きさ21cmの留鳥で、河原・池・湖沼・水田に生息します。コチドリより頭の黒帯が淡く、アイリングも淡黄色です。地上や水辺の浅

瀬で昆虫を捕る様子が、小貝川の岡堰の中州や稲豊橋付近の中州で見られます。



キアシシギ

黄色い足で泥の上や水際を歩き回って餌をとる。

大きさの25cmの旅鳥。河川・水田・干潟に生息し、水際を活発に歩き回る黄色い脚の持ち主です。守谷霊園から伊奈高校周辺で田植の時期に、田んぼの畔で休憩しているのを見ることができます。



ムナグロ

顔を縁取る白い帯が脇まで続くのが特徴

大きさ24cmの旅鳥。水田・河原・干潟で数十羽の群れでいることが知られており、守谷霊園から伊奈高校周辺でも毎年田植の時期に数十羽の群れで行動しているのを見かけます。



成鳥



幼鳥



畔で休むムナグロ(左から2番目はキョウジョウシギ)



キョウジョウシギ

くちばし 嘴で小石をひっくり返す着物姿の京女性

背の赤褐色と黒の班模様きょうおんなが京女性の着物姿に似ているといわれています。大きさ23cmの旅鳥で、水田・河川に生息します。頭から胸が白と黒、脚がオレンジ色です。



セイタカシギ

ピンクの長い脚が自慢の水上のバレリーナ

大きさ37cmの冬鳥(または旅鳥)で、水田・湿地・河口に生息します。黒く爪楊枝のような細長い^{つまようじ}嘴^{くちばし}が特徴で、深めの水域で昆虫・小魚を採取します。



1年の大半をつがいで過ごす仲良しさん



(左はタゲリ)

タゲリ

後頭に黒く長いお洒落な冠羽^{かんう}を持つ湿地性の水鳥

大きさ32cmの冬鳥で、水田や畑・河原・干潟に生息。顔に隈取りのような黒線模様があり、胸には太い黒帯、背と翼が光沢のある緑色の美しい鳥です。



飛翔時に翼を上下に羽ばたくと、白・黒が交互に見えて美しい

コハクチョウ

代表的な冬の使者、^{くちばし}嘴の黄色い部分が狭い白い鳥

大きさ 120 cmの冬鳥で、湖沼・内海・河川に生息。みずき野近郊では11月中旬頃から一言主神社の先の菅生沼に渡ってきます。



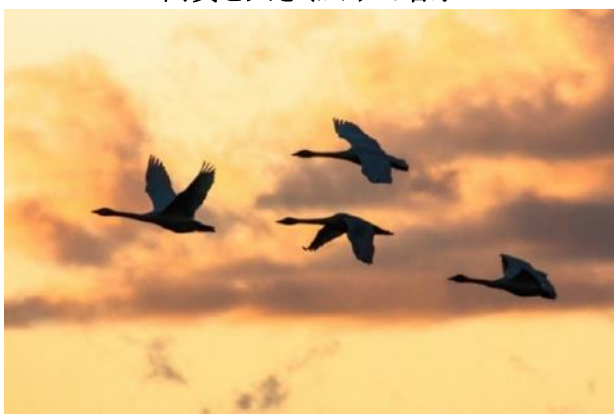
幼鳥を従える親子



両翼を大きく広げて着水



寝ぐらに帰る



群れで北に帰る(2月末頃)

オオハクチョウ

空を飛ぶ日本で最も重い(10Kg)大型の白い鳥

大きさ 140 cm の冬鳥で、湖沼・内海・河川に生息します。
逆立ちして水生植物を食べます。



ハクチョウの仲間は、首を伸ばして飛ぶ(サギ仲間は、首を曲げて飛ぶ)



コハクチョウとオオハクチョウの見分け方



コハクチョウは
くちばし 嘴の黄色部が
小さいく、先端が
丸みをおびる。



オオハクチョウは
くちばし 黄色部が 嘴の黒
色部にくい込んで
いる、また首がコハ
クチョウより長め。

コブハクチョウ

飼育個体が半野生化して留鳥になった白鳥

大きさ142cmの留鳥で、市街地の河川・湖沼に生息。^{くちばし}嘴がオレンジ色で基部にコブ状の突起があり、目先は黒色です。



手賀沼で雛とお散歩中(6月頃)



親鳥の後ろをよちよち追う雛

コクチョウ

全身が黒く、細い首を持ち、^{くちばし}嘴の先端が白いピンクの鳥

大きさ140cmの留鳥。市街地の河川・湖沼で見かけます。



水戸の千波湖



2羽が^{くちばし}嘴と胸をあわせハートを作る求愛姿

マガモ

青首とも呼ばれるカモ

アヒル原種の淡水ガモの代表で狩猟鳥です。大きさ 58 cmの留鳥(旅鳥)で、湖沼・池・河川に生息します。みずき野近郊では、菅生沼・手賀沼・乙戸沼・千波湖等々で見られます。



オスの^{くちばし}嘴は、黄色で先端が黒い。頭の緑色は光の具合で紫や黒に変化。
首に白い輪模様があり、胸がブドウ色



メスの^{くちばし}嘴は黒色で回りがオレンジ色



左の2羽はオス、右の2羽はメス



水面で羽ばたくオス



淡水ガモと海水ガモの違い

淡水ガモ：決して全身で潜らずに水面で^{くちばし}嘴をペチャペチャさせて^{えさ}餌を採ったり(水面採取)または、逆立ちして採食する。カルガモ・コガモ・マガモ・オナガガモ・ヒドリガモ・ハビロガモ等々。

海水ガモ：潜水して^{えさ}餌を捕る。キングロハジロ・スズガモ・ホシハジロ・ウミイサ・クロガモ等々がこの仲間。

オナガガモ

尾が長いダンディーなツートンカラーの大型のカモ

大きき 75 cm の冬鳥で、湖沼・河川・池に生息します。みずき野近郊では、菅生沼・手賀沼・乙戸沼・千波湖等々で見られます。



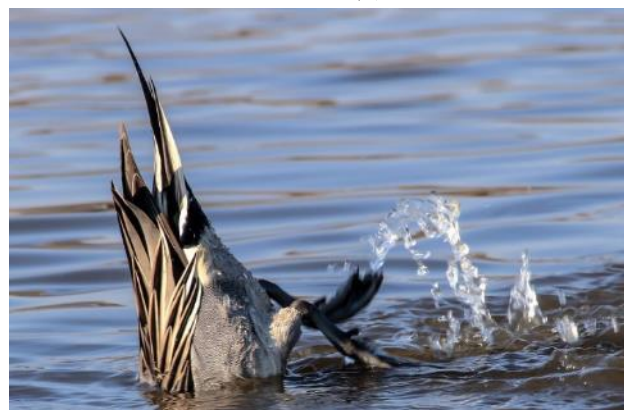
オスはチョコレート色の頭に白い線、くちばし 嘴は黒色



メスは全身褐色



羽ばたきポーズ



逆立ちポーズで食事

ヒドリガモ

鉛色の^{くちばし} 嘴で黄色いオテコが特徴のカモ

大きき 53 cm で、湖沼・海岸・河川に生息。他のカモより陸に上がり草の種などを採食します。乙戸沼や千波湖等で見られます。

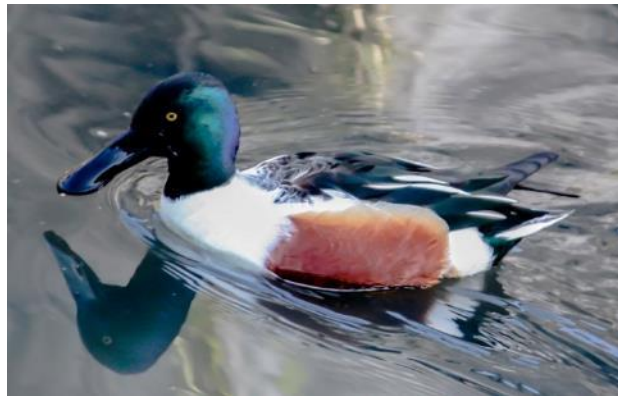


つがいのヒドリガモ

ハシビロガモ

体に不釣り合いな大きなしゃもじ状の^{くちばし}嘴を持つカモ

大きさ 51 cmの冬鳥で、池・湖沼・河川などで見られます。



乙戸沼で水面を幅広い長めの^{くちばし}嘴でペチャペチャと円を描きながら採食する

キングロハジロ

金色の目に黒く長い冠羽が特徴

大きさ 44 cmの冬鳥で、湖沼・池・河川に生息します。腹の白と背の黒から“白黒のカモ”とも呼ばれます。乙戸沼や千波湖

でも見られます。



オスのキングロハジロ(利根川)



4羽のキングロハジロとホシハジロ(左上)
(銚子の河口湾)

ホシハジロ

大きさ 48cm の冬鳥。
湖沼・池・港湾に生息。



茶色い頭と黒い胸、赤い目

スズガモ

大きさ 47cm の冬鳥。
港湾や河口に生息。



頭は光沢のある黒緑色

ウミアイサ

大きさ 59cm の冬鳥。
港湾や海岸に生息。



ぼさぼさ頭が目印(冬の羅臼漁港)

クロガモ

大きさ 51cm の冬鳥。
沖合・港湾・海岸に生息。



全身黒でくちはし 嘴に黄色いコブ(根室沖)

オオバン

大きさ 39cm の冬鳥(留鳥)。
池・湖沼・河川に生息。



黒い体にくちはし 白い嘴・赤い目
水草が好物で潜水上手
守谷の城址公園沼や手賀沼で見られます

バン

大きさ 32cm の夏鳥(留鳥)。
池・湖沼・河川に生息。



くちはし 赤と黄色の嘴
基部が赤く長い黄色の足

水鳥のまとめ

みずき野周辺と近郊の沼・池・湖沼等で見られる水鳥は第4回と本6回で紹介しましたが、観察ポイントを下記にまとめました。今冬も必ず見られると思います。お楽しみに！

※特にその場所で見られる水鳥は太字で表記しました。

第1・第2調整池、 森林公園の池と沼	アオサギ・コサギ・ダイサギ・カルガモ・カワウ・オオバン・ オカヨシガモ
森林公園の池と沼	アオサギ・コサギ・ダイサギ・カルガモ・ コガモ ・マガモ・ カイツブリ ・カワウ・バン・ オオバン ・オカヨシガモ・ ホシゴイ
菅生沼	アオサギ・コサギ・ダイサギ・ オナガガモ ・ マガモ ・カワウ・コハクチョウ・ オオハクチョウ ・オオバン
手賀沼	アオサギ・コサギ・ダイサギ・オナガガモ・マガモ・スズガモ・コガモ・カワウ・コブハクチョウ・バン・オオバン・ユリカモメ・ セグロカモメ ・カイツブリ・ ゴイサギ ・ ホシゴイ
<small>おっとぬま</small> 乙戸沼	アオサギ・コサギ・ダイサギ・オナガガモ・マガモ・ ハシビロガモ ・ ヒドリガモ ・カワウ・コハクチョウ・ ミコアイサ ・ カンムリカイツブリ
千波湖	アオサギ・コサギ・ダイサギ・オナガガモ・マガモ・ヒドリガモ・ コクチョウ ・カワウ・ ユリカモメ



「鳥見の記－散策を楽しもう」は、時期に合わせて見られる野鳥を月1回のペースで連載し、日頃の散策のご参考になれば幸いと続けてきました。この時期から木々の葉が色づき涼しくなる9月頃までは野鳥も少なくなるので、掲載を少しの期間休ませていただきます。次回は、「みずき野とその周辺」でタイムリーにバード・ウォッチャ目線で探鳥できるよう、9月初旬～中旬ころに再開したいと思います。

3丁目のバーダー・サトー 佐藤 健三